

農林水産大臣 赤松 広隆 様

一日でも早い開門を求めます

諫早湾干拓事業潮受堤防排水門の開門をめぐり、検討委員会の検討が重ねられ、4月28日に開門の方向性を示す郡司座長報告が発表されました。これを受けて、農水大臣の最終的な判断が示されようとしています。

わたしたち漁民は、かたずを飲んで、早期開門の歴史的判断を待ち望んでいます。

すでに潮受堤防が閉め切られて13年が経過しました。長年続く不漁のなかで、有明海漁民の生活苦と将来への不安は極限にまで達しています。

多くの仲間が漁業をあきらめました。生活苦のために自殺した者もいます。わたしたちの住む地域は、さびれる一方です。

有明海の再生に途を切り開く開門は、有明海漁民の悲願です。

わたしたちは、決して、わたしたちだけが助かればよいとは考えていません。漁業と農業と防災が両立する途は必ずあると信じています。

ところが、現状は、わたしたち漁民だけが一方的に苦しめられています。

だからこそ、わたしたちは、農業や防災と両立させながらの、一日でも早い開門を求めます。

わたしたちの切なる願いをお聞き届けください。

一日でも早く開門を実現して、宝の海・有明海を再生してください。

平成22年5月18日

有明海漁民・海上デモ参加者一同